

委員会活動(所管事務調査)報告

委員会が所管する事務を調査した状況をお伝えします。

総合交通政策と特別支援教育を調査

市総合交通計画の取組状況や、本吉町山田地区での移動支援サービスの現状、次期総合交通計画策定に向け実施する「移動の実態と公共交通に関する市民アンケート調査」の内容など、総合交通政策の現状について、震災復興・企画課総合交通政策室から説明を受けました。

循環バスは利用者の立場で

質疑等の中で、市内循環バスについては、市民や観光客等が利用しやすいよう企業との連携を含めたルートの再構築やサービスの向上等の意見があり、また、実際に循環バスなどに職員が乗車



説明を受ける総務教育常任委員会

総務教育 常任委員会

11月19日

して体験することが重要であるとの意見ができました。今後、次期総合交通計画の策定に向けて、観光客等も含め、市民の方々が安心して公共交通を利用できることやサービスの徹底を図るとの説明を受けました。

障がいのある児童生徒の支援体制は

平成30年に文部科学省並びに厚生労働省から、教育と福祉の一層の連携等の推進について、通知が発出されていることから、障がいがある児童生徒の支援体制や福祉関係機関との連携など、特別支援教育の現状について、教育委員会学校教育課から説明を受けました。

質疑等では、通知に基づく教育委員会と福祉部局、学校と障害児通所支援事業所等との関係構築の「場」を設置するまでには至っていないとの説明があり、今後、保健福祉部との連携を一層推進すると共に、障がいがある児童生徒の将来の自立と社会参加に向け、切れ目の無い支援体制の整備を図るとの説明を受けました。

気仙沼ビジネスサポートセンターを調査

令和3年5月に開設された気仙沼ビジネスサポートセンター(気仙沼ビズ)を現地調査したほか、市道整備計画案について土木課から説明を受けました。

公設の経営相談所

相談は3週間待ち

市が南町海岸の「まち・ひと・しごと交流プラザ」に設置した気仙沼ビズは、無料の経営相談所です。センター長は月収100万円で公募し、113人の中から選ばれた吉澤貴幸さんが、先進地の愛知県岡崎市や山形市などで研修を積んだ後に6月から相談業務を開始しました。



吉澤センター長から説明を受ける委員

産業建設 常任委員会

10月29日

についても説明があり、相談が3週間待ちになるほどの人気ぶりの理由を知ることができました。

実績を確認した一方で、運営費用に令和3年度で約3600万円かかっていることから、成果の指標などについて質疑がありました。

市道整備を計画的に

評価もとに優先順位

新しい市道整備計画は、評価基準を設けて路線ごとに点数をつけることで、優先度の高い路線から整備を進めます。地区ごとに意見交換会を重ね、令和8年度までに整備する改良系と維持系でそれぞれ20路線をまとめました。これに継続事業の14路線を加えました。

その経緯を確認したうえで、吉澤さんから約半年間の実績について説明を受けました。10月26日までの相談件数は375件に達し、売り上げ増につなげた具体例に

概算事業費は継続事業で31億円、改良系と維持系で40億円の計71億円となるため、計画に盛り込まれる路線の整備が進むかどうか心配されています。担当課からは、改良系と維持系の新規40路線については計画期間中に全路線で設計等に着手することを目標としていることが説明されました。